

私のドライアイ診療①

— 医療法人社団海仁 海谷眼科 —



吉田 真知 Machi Yoshida
医療法人社団海仁海谷眼科
E-mail: kaiya@kaiya-eyes.com

診療時間：月・火・水・金曜日 8:30～12:30, 14:00～18:00

木・土曜日 8:30～12:30

休診日：日曜日・祝日、木・土曜日午後、年末年始

〒430-0903 静岡県浜松市中区助信町 20-40

TEL：053-476-3388(代表)

<https://www.kaiya-eyes.com/kaiya/>

当院のドライアイ診療の特徴

涙点プラグ治療	血清点眼治療	サプリメント	実用視力検査	その他 (IPL)
○	×	○	○	○

さまざまな眼疾患にドライアイを併発

当院は、静岡県浜松市にある総合眼科であり、眼科領域におけるあらゆる疾患の診療を提供しています。院内には入院機能も備え、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患などに対し高度な技術を用いた手術を行っており、2022年の手術実績は2,900件に上ります。

そのような中、別の疾患の治療目的で受診して、乾燥感が気になる、目がしょぼしょぼするといった自覚症状からドライアイが疑われ、検査により確定診断に至る患者さんが一定数います。ほかにも、20～30代くらいの若い世代を中心に、コンタクトレンズの装用によりドライアイを自覚し、眼科での治療を求めて受診する方もいます。

現在、当院を受診する患者さんの診断名においては、ドライアイが3割近くを占めている状況です。

ドライアイ診断のための検査

ドライアイが疑われる場合の問診では、患者さんの職業や日常生活の様子を聞き、症状がいつ頃から始まったのか、どの時間帯で生じやすいのかなどを質問します。そのうえで、日常生活においてドライアイにより、何に一番困っているのか

を確認します。

検査では、細隙灯顕微鏡で角膜の状態を確認し、フルオレセイン染色で上皮障害を調べ、涙液層破壊パターンや涙液層破壊時間 (BUT) も確認していきます。また当院では2022年から、IPL (intense pulsed light) と呼ばれる光照射によりマイボーム腺のつまりを除去し、涙の油層を正常化してドライアイの改善をめざす治療を導入しているため、マイボーム腺開口部閉塞や炎症所見の有無なども確認しています。そして必要に応じて、実用視力検査、シルマーテストなども実施しています。

ドライアイに関する説明のコツ

ドライアイと確定診断すると、耳慣れた疾患名のように皆さんすんなり受け入れてくれますが、そのとき多いのが「治療をすれば治りますよね」という質問です。そこは眼表面の層別診断 (TFOD) にもとづき患者さん個々のドライアイの病態を説明し、点眼薬による治療が必要である点を強調するとともに、「症状はよくなったり、悪くなったりします。それに合わせて治療を続けていきましょう」と患者さんを励ましています。

実際、ドライアイの症状は季節により変動します。患者さんもちょうど季節を経験すると、「気長につきあっていきます」と

ようになります。そのなかで、花粉症のシーズンになればアレルギー性結膜炎の治療もあわせて行うなど、患者さんの目に関する困りごとをトータルで診ています。

新たな IPL 治療の反響

ドライアイ患者さんの眼瞼の状態を確認すると、高齢者を中心に IPL 治療の適応となる方は多い印象です。IPL 治療は、基本的には点眼薬と併用して行いますが、その効果については「非常によかった」と喜ぶ患者さんがいる一方で、全体ではばらつきのある印象です。

そもそも、マイボーム腺機能不全はあっても、なぜかドライアイの症状は乏しい患者さんもあります。その関連についてはまだ解明できていませんが、これから症例数を増やして、どのような患者さんなら IPL 治療の効果を得やすいかを追究していきたいと思います。

ただ、いかんせん保険診療ではないため、適応のある患者さんに対しどこまで強くお勧めするかは迷うところです。患者さんの生活背景によって治療費の負担感も異なるため、患者さん個々の費用対効果も踏まえつつ、IPL 治療の適応を検討していきたいと思っています。

点眼治療の変化

ドライアイの点眼治療においては、これまで多くの患者さんにジクアス[®]を処方してきました。ただ、現役でお勤めをしているような方の場合、1日6回点眼は難しく、特に昼間の点眼は

難しいという声はよく聞かれました。症状が強い患者さんでは6回を遵守できても、症状の改善に伴い、回数が減っていくケースも多かったようです。

点眼のアドヒアランスが悪く、じゅうぶんに効果が得られない場合は、タリビッド[®]眼軟膏の処方や、涙液量が少ない患者さんには涙点プラグの導入も提案してきました。

今回、3回点眼のジクアス[®] LX が登場して、「これはありがたい」と喜ぶ患者さんは多いです。切り替え後の患者さんとの会話のなかで、これまでの点眼回数も実際には1日3回程度であったことが窺えますし、ジクアス[®] LX は、多くの患者さんの生活実態に則した点眼薬になりうると思います。すでに切り替えた患者さんにおいて特に困ったという訴えはなく、スムーズに移行できています。

ドライアイ診療のこだわり

ドライアイ診療では、これまで TFOD や眼表面の層別治療 (TFOT) のコンセプトは知っていても、日常診療に取り入れて役立てることはありませんでした。しかし、IPL 治療を導入してからはマイボーム腺も含め患者さんの眼表面をより詳細に観察するようになり、ドライアイと一口にいっても患者さんの所見はさまざまであると、改めて気づかされた次第です。

TFOD にもとづき、個々の患者さんのドライアイの原因を見極め、病態に適した治療を組み立てていくのは、非常に効率的だと感じています。そこに加え、IPL 治療という新たな選択肢も活かしながら、個々のドライアイ患者さんに最適な治療の提案をめざしていきたいと思っています。



IPL 治療の様子



海谷眼科外観